

コロナ下学生バイト事情

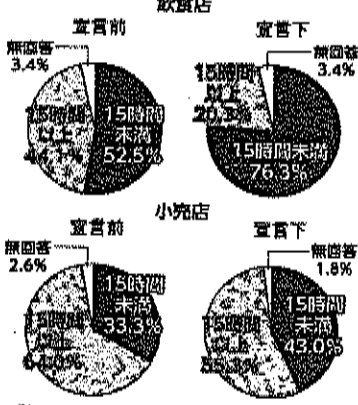
コロナでバイトのシフトが激減した。解雇もされた。感染も不安…。ゼミの学生までもに響く11月目の「学生アルバイト白書」に向けて調査結果をまとめた、北海学園大学経済学部教授の川村雅則さんに聞いた。

北海学園大学
経済学部教授
川村雅則さんに聞く



「学生のバイト事情に変化はありますか？」
「バイトを始めたばかりの1年生の回答が多かった。やはり、寄せられた回答700人中、バイトをしているのは600人ほどでした。昨年度は、勤務が減ったから口を稼いだのは、悪化を

グラフ1 緊急事態宣言前と宣言下での週の労働時間数の変化



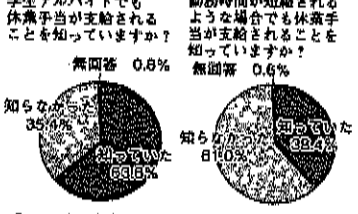
手当支払いは半数 接客トラブルも…

除き7割でした。今年度は見極めが難しいですが、まず勤務は総じて回復しております。職種による差を感じます。

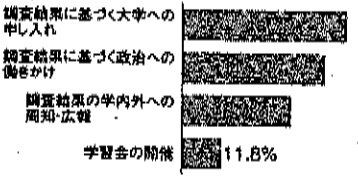
業種間で差が

学生の2大バイトである飲食と小売りで、週あたりの勤務時間が15時間未満という学生の割合を比べてみました。緊急事態宣言前は飲食で約半数、小売りで3人に1人だったのが、宣言下ではそれぞれ4分の3、4割にまで拡大しました。

グラフ2



グラフ3 今後の活動で実施すべきだと強く思うことは？



「接客の最前線に立ちたい」という学生もいます。逆にホテルやイベント関係は厳しい。契約は切れてないけれども、シフトゼロで専上の失業状態もいます。

「接客の最前線に立ちたい」という学生もいます。逆にホテルやイベント関係は厳しい。契約は切れてないけれども、シフトゼロで専上の失業状態もいます。

お客からの嫌がらせ(カスターマーハラスメント)がひどくなったようです。マスク不足の当初は「店に品物がなければ」と怒られた学生もいました。

「感染対策はどうか。」
「服装を節約して毛布にくるまっている」という学生もいました。

「意見反映して」
「意思決定の場への学生の参加の必要性も指摘されています。」

「感染対策はどうか。」
「服装を節約して毛布にくるまっている」という学生もいました。

「感染対策はどうか。」
「服装を節約して毛布にくるまっている」という学生もいました。